

ぬちどうたから

昨日（4月17日）から5月7日までが、本校の前期人権旬間です。この期間、生徒の皆さんが身の回りに存在する様々な人権問題に気づき、正しく対処しようとする気持ちをもてるよう、特別の授業を行うなどします。この人権講話もその1つです。

まずは1冊の絵本を皆さんと共に読んでみたいと思います。題名は「いのちのまつり」です。沖縄県が舞台。絵本の冒頭で「デイゴの木」に真っ赤な花が咲いた、とあります。この木は沖縄県を象徴する木です。4月中旬から花が咲き始めるそうです。お話の季節はちょうど今頃なのかもしれません。では、音読します。

絵本「いのちのまつり」の音読



どんな感想をもったのでしょうか。何を感じたのでしょうか。私は絵本の中の、コウちゃんの言葉「へえー、ぼくのいのちってすごいんだね」が印象に残っています。この絵本を読みながら、私自身も「いのちってすごい」と実感したからです。まずは、自分自身のいのちを大切にしましょう。絵本の最後、コウちゃんが「いのちをありがとう～！！」とたくさんのご先祖様に感謝する場面がありました。皆さんも100万人以上いるご先祖様に感謝の気持ちをもってほしいです。今ここで生きていること、そのこと自体に感謝したいです。そして、いのちのバトンをしっかり受け取り責任をもって、今このときを全力で生きることが、自分自身のいのちを大切にすることなのだと思います。

さらには、周りの人のいのちも大切にしなければいけません。周りの人は誰でも、一人一人に100万人を超えるご先祖様ががついているのです。そんな大事な一人一人の心や身体を傷つけていいはずがありません。始業式や入学式で、「周りの友達のよいところをたくさん見つけてください」とお話をしました。一人一人のよさを見つけることが、その人を認めることにつながります。さらには、周りの人の立場や思いを想像して欲しいのです。このことは、先日の学校生活オリエンテーションで生徒指導主任の齋藤先生がお話していたことと重なります。1年前の人権講話では「慮る」という言葉を使って相手の立場や思いを想像し大切にすることをお願いしてあります。

3年前、沖縄の本土への復帰50周年記念式典が行われました。沖縄は先の大戦で、悲惨な地上戦の舞台となり、多くの命が奪われました。式典に出席された天皇・皇后様はご挨拶の中で「ぬちどうたから」という沖縄の方言をお使いになりました。「命こそ宝」という意味の言葉です。苦難の歴史を歩んできた沖縄の人々に寄せられた思いを感じ取ることができます。改めて「ぬちどうたから（命こそ宝）」です。自分自身の、周りの人の命を大切にしていきましょう。